



関東運輸局

Kanto District Transport Bureau



# 1 「江戸街道プロジェクト推進ビジョン2023」とは

本プロジェクトを2024年度までに広域関東における効果的な施策とするために、広域関東エリアの観光関係団体等による「街道を活かした積極的な取組」を促す方針をとりまとめ、令和5年4月に策定されたものです。

## 2 広域関東観光の ポテンシャル

- ①国内有数の観光地や温泉地、江戸文化が花咲いた歴史・文化のほか、まだ知られていない地域資源も含めたコンテンツが豊富
- ②高度に整備された鉄道・バス・高速道路ネットワーク
- ③国内を代表するゲートウェイである成田・羽田の国際空港があり、訪日外国人旅行者の誘客に有利

## 3 広域関東における 観光推進の方向性

- ▶潜在する地域資源を磨き、ブランディングすることで情報発信力を高め、認知し、訪れてもらい、体験（消費）してもらう
- ▶域内全体が意識を共有できるブランディングを通じて、ブランド価値を高め、さらなる来訪を促す好循環を目指す

## 4 推進ビジョンでご提案する 八つの取組み

### 壹 連携の契機となる 街道ごとのストーリー設定

知名度がまだ高くない地域資源にも、魅力的なコンテンツはたくさんあり、その魅力を磨くことは消費者の来訪意欲を促す事に繋がります。そのため、地域資源を名称や写真に加え、他との違いや潜在価値等でストーリー設定することにより、その地域資源が持つ魅力の磨き上げを行っていきます。



提供：(一社)埼玉県物産観光協会

既存事例の取組み  
～埼玉六宿～

### 貳 ログマークの活用と展開 による気運の醸成

各地域で一緒に取り組む方々が当プロジェクトの目的、理念、想いをひとつにできるように、ログマークを掲げ、この旗印のもと、国内外の旅行者にも自信と真心をもって私たちが暮らす地域の歴史や文化、自然といった古くて新しい魅力を発信し、多くの来訪者から共感や信頼感を得られるようなブランド価値の醸成につなげます。



江戸街道プロジェクトログマーク

### 参 地域の取組や 人材育成に対する支援

過去に宿場町であった地域でも、現在そこに暮らす人々が宿場町であった歴史を知っているとは限りません。また、それを知っていたとしても、街道や宿場をどのように観光に活かしていくか分からないケースも多く見受けられます。そこで、本プロジェクトでは様々な有識者と連携し、街道観光振興を検討する地域に専門家を派遣し、地域資源化の取組の相談や地域の人材教育支援を行っていきます。



既存事例の取組紹介  
～越ヶ谷宿の雛めぐり

### 肆 実証事業の実施による モデル事例の構築

地域の観光コンテンツを稼げる商品とするためには、消費者による評価検証や課題の洗い出しと改善を行う実証事業も、ひとつの手段としてあげられ、それらの事業で得た情報をお互いで共有し、参考にしながら各々のストーリーづくりに活かしていくことができます。本プロジェクトでは、そういったモデル事例を共有できるプラットフォームを構築し、各地域の取組みを支援します。



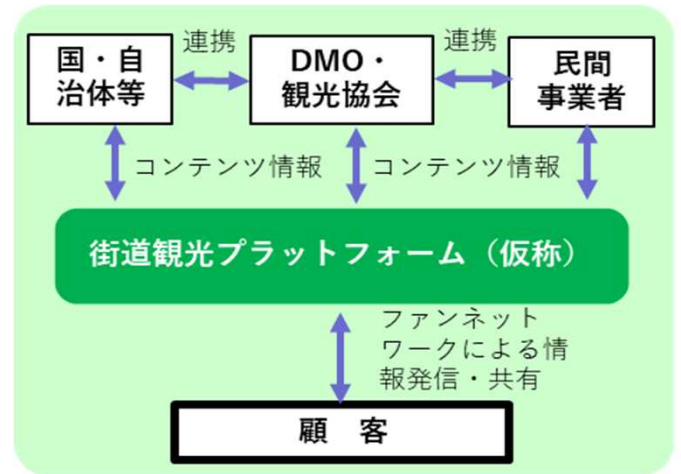
江戸街道プロジェクト  
ウェブサイトイメージ

# 5 プロジェクトの推進で目指す姿

本プロジェクトの出口戦略は、江戸街道という統一テーマで広域関東の観光におけるブランド価値を高め、維持し、地域が自立して持続可能な観光で稼げるようになっていくことです。

そのために、地域の観光コンテンツや街道プロモーションツールを集約し、広域関東における街道観光の情報発信を一元提供できるプラットフォームを構築し、関係者が容易に情報発信、共有できる体制をつくりまします。

- ◆BtoC：一方向な情報発信にとどめず、双方向ファンネットワークの仕掛けづくり
- ◆BtoB：地域の関係者が繋がる場としての機能構築



## 参 ニーズとターゲットに対応したプロモーションの推進

街道観光を知らない方々は街道という言葉も、その沿線地域に何があるかも知らず、結果、情報を探そうという行動に至っていません。知ってもらうためには、フックとなる魅力的なコンテンツを磨き、それを伝えるWEBサイトを整備し、併せて検索のきっかけとなるようなプロモーションが必要です。当プロジェクトでは、SNSを活用したプロモーションを推進していきます。

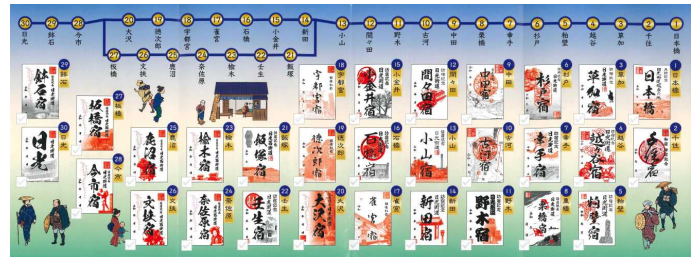


取組事例  
～関東運輸局facebook～

## 四 既存の街道関連団体との協働と連携組織の拡大

広域関東には、街道観光による地域振興に取り組んでいる団体があります。これらの既存団体と連携することで江戸街道プロジェクトを効果的かつ加速的に進めます。

既存事例の取組紹介 ～御宿場印プロジェクト～



## 七 補助金等を活用したコンテンツ造成等の推進

観光庁では、コロナ禍で大きな打撃を受けた日本の観光産業の本格的な復興に向け、様々な補助事業\*を展開しており、それぞれの地域での取組として、これを活用し当面の地元負担を抑えつつ将来的に稼げる観光商品づくりにチャレンジすることも可能であり、江戸街道プロジェクトに位置付けて後押ししていきます。



提供：平塚市観光協会  
既存事例の取り組み  
～平塚市・家康弁当～

※「観光再始動事業」  
※「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」

## 八 フォーラム等の開催による認知度の向上

広域関東のブランディングを図るため、本プロジェクトの存在意義を高め、内外に発信し、活動を活発化することが求められます。そのためには、地域全体の情報発信と多くの協力者を得ることが重要なため、プロジェクトの露出を高め、セミナー等を積極的に展開していきます。これにより、マスコミからの注目を集め、当プロジェクトが広域関東一体となった取組であることを広く発信することができます。



江戸街道シンポジウム  
(R4.7.4)

## 江戸街道プロジェクト概要

『江戸街道プロジェクト』とは、日本橋を起点とする五街道とその枝道として整備された水戸街道や成田街道等の脇往還を「江戸街道」として位置づけ、街道沿いに豊富に点在している歴史的な観光資源、食や文化などの魅力的なコンテンツを再編集し、\*1広域関東を「江戸街道」という統一テーマによってブランディングすることで、効果的に国内外へ発信し誘客促進を図る取組です。



\*1 福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県  
1都10県

## ロゴマークについて

### ◆ロゴマークに込めた想い

街道ブランドによりこれからも様々な歴史を結ぶことを象徴的に表現するため、濃い色から広がる5色のラインは、地域それぞれの特色ある営みが詰まった歴史を未来に向け発展していく姿をイメージし、円環の2色は広域関東の海、山等の豊富な自然を表すデザインとしました。



江戸街道プロジェクトロゴマーク

### ◆ロゴマーク使用例



### ◆使用について

#### 【使用料】

無料

#### 【提出書類（必須）】

使用届出書・その他添付書類(※)

※詳細はお問い合わせください。

#### 【提出方法】

メール／郵送／持参

### ◆使用届の提出先

#### 【住所】

〒231-8433

神奈川県横浜市中区北仲通5-57

横浜第二合同庁舎 18階

国土交通省 関東運輸局 観光部

#### 【メールアドレス】

ktt-kankou1@ki.mlit.go.jp

リンク

プロジェクトHP



YouTube  
(シンポジウム映像)



Facebook



製作： 国土交通省 関東運輸局観光部

2023.5月発行